

地方独立行政法人大阪市博物館機構 年度計画

令和 7 年度

令和 7 年 9 月 18 日変更

地方独立行政法人大阪市博物館機構

(前 文)

地方独立行政法人大阪市博物館機構（以下「本法人」という。）は日本初の博物館群を運営する地方独立行政法人として平成 31 年 4 月に設立された。本法人の使命は大阪市ミュージアムビジョン（平成 28 年 12 月、大阪市策定）に掲げる「都市のコアとしてのミュージアム」を実現し、都市格の向上、大阪の活性化及び発展並びに住民力の向上に貢献することである。そのため本法人は文化・芸術の発展と自主的経営力の発揮を目指して、中長期的な視点に立った事業の計画立案から博物館の一体的経営まで一元的に取り組んできた。

第 1 期中期目標・中期計画期間においては、人材の確保や、資料の充実、施設・設備の整備など「法人の基礎固め」については一定達成することができたため、第 2 期においてはそれらの組織基盤を基に市民の皆様に様々な活動成果を還元できるよう積極的に年度計画を進める。

第 2 期中期目標・中期計画期間の 2 年度目にあたる令和 7 年度においては、資料の充実化や調査・研究活動の継続など博物館・美術館の根幹をなす普遍的な活動を継続して進めつつ、下記の重要事項に力点をおいて策定・実施する。

記

1 年間総来館者数 360 万人の達成とアフター万博への取組

2025 年大阪・関西万博に向け本法人全体で「大阪博」に取組み、「大阪の宝」をその来歴も含めて国内外の方々に知ってもらうことで、大阪の都市魅力の発信はもとより、本法人としての認知度の向上を実現し、当初目標としていた「年間総来館者数 360 万人」を達成する。また 10 月以降においては、ポスト万博としてそのレガシーを本法人として継承するべくその方向性を決定する。

2 市立美術館の再開館等による賑わいの創出

令和 7 年 3 月から再開館した市立美術館において、各種の魅力ある展覧会の開催やリニューアルした施設を利用したユニークベニューの実施、周辺施設との協働を積極的に進める。また、本法人設立後初の 6 館同時開館の年度となることから、各館連携を積極的に進めることにより 6 館の魅力を発信し、大阪の都市魅力の向上に寄与する。

3 利用者サービス向上施策の推進

令和 6 年度より積極的に進めてきた多言語化や I C T 化等により、来館者にとって快適な鑑賞機会の確保を積極的に進める。また、市立美術館、中之島美術館、科学館においては開館時間の延長等の取組を行う等、来館者目線に立ったサービス向上施策を実施する。

4 戦略的広報・プロモーションの展開

来館促進や各館の認知度の向上を目指し、引き続きマーケティング・リサーチやビッグデータ等の分析によるエビデンスに基づく戦略的な広報・プロモーション活動を展開し、各館の情報を広く国内外へ発信する。

5 第73回全国博物館大会の開催

本法人が中心となり大阪市で開催する全国博物館大会を通じて、全国の博物館関係者と積極的に協力・交流し成果を上げるとともに、博物館を取り巻く多くの社会課題の解決に取り組む。

6 組織全体での情報共有の徹底によるガバナンスの強化

経営会議等の議決事項等については、総務課長連絡会議や学芸課長連絡会議、グループウェアを活用して各館へ伝達し法人全体の決定事項を職員へ共有する。また、事務局及び各館の活動により得られた知識・ノウハウや成功事例を展開することでシナジー効果を高めるとともに、経営理念や活動方針等組織への浸透を図り組織のガバナンス強化に取り組む。

<各館の令和7年度の主要事業・施策>

○市立美術館

館蔵品と寄託品を展示する企画展示（常設展示）と、「日本国宝展」、「ゴッホ展」、「妙心寺展」等の特別展を開催し、年間300日の開館をめざす。また、ユニークベニユーを積極的に進める。

万博開催期間において、来館者目線に立ったサービス向上のため開館延長を実施する

○自然史博物館

春期の「貝に沼る展」、夏期の「昆虫MANIAC」において多く来館者を迎えるとともに、下半期は「学芸員のお仕事展」を開催し、調査研究に根差した活動や標本のデジタル化等を推進する。

大規模改修による機能強化に向け、実施に向けた検討を進める。

○東洋陶磁美術館

館蔵品を活用した、特別展「CELADON—東アジアの青磁のきらめき」や特別展「蔵出しコレクション—安宅・李秉昌コレクションとともに—（仮称）」など集客力のある展覧会事業を実施する。

リニューアルしたエントランス・ホール等を活用したユニークベニユーなどの取組を進める。また、従来なかなか取り組む事ができなかった、普及事業として、館名石(MOCO石)を磨くワークショップや、MOCOファミリースペシャルデーなどのイベントも実施する。

○科学館

令和6年度にリニューアルした展示場の活用を進め、企画フロアでの企画展示等のイベントを充実させる。特に、「プラネタリウム100年」、「極限時空・ブラックホールと重力波」、「MIRAI—Bit展（仮）」など国内外の博物館、大学及びその他の主体との連携による企画展示等により、来館者の多様なニーズへの対応を図る。

また、2025年大阪・関西万博会場でサイエンスショーを実施するほか、期間を通じて豪州国立科学技術センター等と交流を深める。

○歴史博物館

2年目となる民間連携事業をさらに深めることで、これまで以上に魅力的な活動を進める。海外も含めた来館者に対応するための環境整備への準備を行う。

「正倉院 THE SHOW」などイマーシブ系企画展を展開するとともに、海外の博物館への資料貸出などを通じて交流を活発化させていく。

○中之島美術館

「大カプコン展」などマスメディアと連携した意欲的な特別展を開催するとともに、「上村松園展」や「小出檜重展」など関西の芸術家の大型回顧展、「アールデコ 100 年展」や「サラ・モリス展」など、デザインや現代美術に注目した中之島の独自性の高い企画展を展開し、多くの来館者を迎えることで大阪の活性化に寄与する。

万博開催期間において、来館者目線に立ったサービス向上のため開館延長を実施する。

大阪市立美術館

(前 文)

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とする。

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行う。

また、来館者の満足度が高く住民にとって立ち寄りやすい美術館を目指し、展示改修を確実に進め、令和7年のリニューアル・オープンを迎えることを契機に、改めて、マスコミ等との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致にも注力する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

ア 専門人材の安定的確保を図る。

イ 人材育成の一環として、文化庁の主催する博物館活動に資するセミナーへの学芸員の受講を推進する。

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

館蔵品、寄託品、及びその関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和7年度目標】

作品・資料等実地調査 30 件

著書・論文・図録等執筆 10 件

研究発表・講演・シンポジウム等 10 件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

東京文化財研究所、文化財活用センター、文化財防災センター、文化庁、国宝修理装飾師連盟及び日本博物館協会等が開催する研修会、文化財レスキュー活動及び所蔵作品の修復監督業務等の機会を通じて、美術作品の保存や修理に関する知見の習得に務める。

【令和7年度目標】

各種研修会 2 回

修復監督業務 2 回

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

大規模改修工事により導入された展示ケース、免振装置、照明器具に関する操作・使用経験を重ね、鑑賞効果と安全性向上について記録・分析を行う。また、最新設備導入館の全国的リサーチ、各種新製品の仕様に関する情報収集を継続する。

【令和7年度目標】

鑑賞効果・安全性向上の記録、分析 1 件

最新設備導入館・新製品仕様リサーチ 1 件

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

全国の博物館・美術館が参画する各種研究会、マスコミ各社の文化事業部等との情報交換をもとに、大都市及び地方中核都市での展覧会の開催動向や運営戦略について調査・研究を行う。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集を実施する。

【令和5年度実績】購入0件 寄贈12(うち重文4)件 寄託 受入118件 返戻119件

イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録を収集する。

【令和5年度実績】購入 図書・雑誌110件

【令和7年度目標】館蔵品データベースの画像追加1,000件程度

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

企画展示での効果的な活用を目指し、館蔵品の修復を計画的に進める。

【令和6年度実績】3件（うち国指定文化財2件）

【令和7年度目標】2件（国指定文化財2件継続）

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア 館蔵品、寄託品を保管・展示する収蔵庫、一時保管庫、1・2階の展示室、3階のアトリエほか、事務所、機械室等バックヤードを含む全館の総合的虫菌害の管理業務（IPM）にかかる長期契約（3年）を締結する。

イ 害虫トラップ、空気環境の調査・分析、清掃、コンサルティングの定期的実施により、新規設備を最適運用するための諸データ収集、防犯・防災システムの定期的点検を実施する。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

館蔵品データベースの画像追加（1,000件程度）とともに、館蔵品の3Dデジタルコンテンツ（10件程度）を公開し、館蔵品に対する一般の関心を獲得する。

【令和6年度実績】

美術館HP、デジタル大阪ミュージアムズにおいて、館蔵品データベースとして、9,791件（画像付842件）公開

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

改修後の館の持つ機能を把握し適切に運営することで、安全性や快適性の向上を確保する。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

エレベーターの設置、身体障がい者用トイレの新設等、バリアフリー化した施設を適切に活用することで、来館者の利便性の向上を確保する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 (12)

企画展示において大阪の宝を紹介する（館蔵の優品 20 件展示）。また館蔵品データベースへの画像を追加し（1,000 件程度）、3D デジタルコンテンツ（10 件程度）を公開する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え (13)

日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を多彩な作品ジャンルから企画する。また、東アジアの美術・歴史・文化に特化したテーマによる「特集展示」を開催する。

【令和 7 年度目標】

中国石仏・カザールコレクションの常設化、特集展示「売茶翁と花月菴」（仮称）の開催、企画展示の 300 日開催、有料入館者数 35,000 人（特別展有料入館者 400,000 人除く）

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

日本と中国の美術を中心とする館蔵品の特性を活かすとともに、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品に注目した自主企画による特別展、及び新聞社・テレビ局等他機関と協働した特別展を開催する。

【令和 7 年度目標】

新指定の館蔵国宝作品を公開する。

「日本国宝展」 目標有料入館者数 200,000 人

館蔵・寄託の漆工作品をまとめて公開する

「NEGORO 根来―赤と黒のうるし展」 目標有料入館者数 15,000 人

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、2025 年大阪・関西万博期間中に、夜間開館対応を実施して来館者利便性向上を実現する。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 本法人が開催する大阪博において、企画展示で当館の大阪の宝 20 点を公開する。

イ ミュージアム連続講座等、本法人の連携事業に学芸員が出講する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

令和 7 年度より、他の博物館施設に対する作品の貸借を、当館の企画展示での使用状況を考慮しながら再開する。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

館内施設を活用して、ユニークベニユーを実施する。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

東アジア各地域の美術史やミュージアム経営戦略等に関する学芸員の調査・研究活動の成果について、国際的に視野を拡大して情報発信を図る。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

国外館の書籍出版等による画像掲載依頼への協力、各種刊行物の交換等を通じて、学芸員の学術交流を深めるとともに、国外作品に関する情報蓄積を継続的に行う。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)

中国・上海博物館、同・瀋陽故宮博物院の学芸員との連携・協働により、展覧会(交換展含む)開催準備を進める。韓国中央博物館による李朝時代の美術展への作品貸出する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

大阪博を通じて、市立美術館の告知や事業内容の周知により来館者数を獲得する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

特別展開催毎にアンケートを実施する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

リニューアル・オープン後の館の魅力向上を全国的にアピールするため、テレビ、新聞及び美術雑誌等に向けた情報発信(出演・寄稿・広告掲出等)の頻度を高める。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

大阪観光局と連携した広報展開を行う。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

S N Sによる情報発信を積極的に進める。

【令和7年度目標】

I n s t a g r a m : 30 回以上

X : 30 回以上

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

大阪博を通じて、市立美術館の告知や事業内容の周知により来館者数を獲得する。

2) 所蔵するコレクションの魅力伝える常設展示における展示替え(再掲) (28)

【令和7年度目標】

中国石仏・カザールコレクションの常設化、特集展示「売茶翁と花月菴」(仮称)の開催、企画展示の300日開催、有料入館者数35,000人(特別展有料入館者400,000人除く)

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

新聞社やテレビ局との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致に注力する。また、大阪観光局等と連携を図り、効率的かつ効果的に館の市場浸透を図り、主催する展覧会の告知を行う。

【令和7年度目標】

「日本国宝展」「ゴッホ展」「妙心寺展」 有料入館者数 合計400,000人

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長(再掲) (30)

閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、2025 年大阪・関西万博期間中に、夜間開館対応を実施して来館者利便性向上を実現する。

5) 多言語表記や I C T の活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

館パンフレットの情報更新と多言語化、及び企画展示の解説、サイネージ情報の g o o g l e 翻訳による多言語化を実施する。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

改修工事時に施した館内サインについて、来館者利便性等を検証する。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

ア 慶沢園との共通チケットを販売する。

イ 周辺エリア（てんしば等）の事業者等との連携を図る。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

ミュージアムショップやカフェの委託事業者と協議を行い、館運営とリンクした来館者サービスの向上を実現する。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

ミュージアムショップ委託事業者と連携し開発したオリジナルグッズについて、改良等を検討する。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

各種出版や商品開発のための画像データを提供する。

【令和 5 年度実績】60 件

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

ア 子ども、家族を対象とするワークショップやイベントを実施する。

イ アートカードによる対話型鑑賞、及び朗読と映像・音楽による作品鑑賞会を開催する。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア 博物館実習の受入を再開する。（30 人程度）

イ インターンシップ受入れ再開に関して、募集方法や実施内容について協議する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアや N P O 等の各館への活動の参画の促進 (39)

各種ボランティア活動、N P O 等の館活動への参画等をサポートする人員の配置について、引き続き館内で協議する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

カフェ及びミュージアムショップの委託事業者から、美術館運営における意見を聴取する。

- 3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)
- 教育普及事業の一つとして位置付けている美術研究所を再開する。また、そのワークスペースを利活用する試みを実施する。

大阪市立自然史博物館

(前 文)

大阪の「自然の情報拠点」として大阪市立自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、自然を見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指す。

人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える。

今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な施設改修実施に向けて検討を進めるとともに、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

ア 必要な分野の学芸員および必要な職能の職員を安定的に配置し、ライフプランに応じ、休職時等には業務継続に必要な措置を速やかに確保する。

イ スキルアップのため、関連催事（関連分野の学術集会、博物館学関連行事、職能研修 等）をオンライン・オフラインで誘致・実施する。

ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加等専門的研修へ参加する。また積極的にオンライン会議等を活用する。

エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

ア 学芸員による館蔵資料を活用した研究及び野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。

イ 外来研究員や外部研究者による館蔵品を用いた研究を支援する。

ウ 科研費や民間助成金を積極的に活用し、必要な調査を計画的に行い、機会を捉えて積極的に成果発表を行う。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

ア 大規模改修をにらみ、必要な収蔵体制や条件等について大規模改修検討会議、学芸会議等でより精緻に検討を進め、具体的な諸室の条件等を明確化、基本計画や設計に反映する。

イ 文化財防災ネットワークと連携し、大規模災害に備えるとともに、調査や研究・研修等で貢献する。

ウ 国際自然史標本保存学会や文化財科学会等、自然史分野の保存科学関連の情報を積極的に収集し、またそれを本法人内や国内に還元する。

エ 「自然史博物館研究報告」等で当該分野の研究報告を受入れる。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

- ア 大規模改修を目指し、新たな展示手法や包摂的な展示手法の積極的な情報収集、開発に努める。
- イ 外部資金等を活用し、デジタルを活用した展示・SDGsの達成に向けた教育に関する展示の開発を続ける。
- ウ 西日本自然史系博物館ネットワークや全国科学博物館研究協議会、全日本博物館学会等と連携した展示手法に関する研究会・学会に参加し、情報収集及び当館の取組を発表し、議論する。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

- ア 科研費共同研究等の機会を捉えて、博物館の来館者の期待、経営手法及び寄附開発などについての研究を進める。
- イ モバイル端末等のビッグデータ活用を行い、来館者属性の分析を進める。
- ウ 博物館を取り巻く様々な属性を持つ（潜在的）利用者からのヒアリングの機会を設け、インクルーシブな博物館づくりを目指す。
- エ 主要な利用者の代表である友の会からの声を運営に活かす。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

- ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」を改定し、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受入れ、保存管理する。
- イ 収蔵品の増加ペース及び残存収蔵スペースを精査し、大規模改修をにらみつつ、将来にわたる確実な収蔵のために必要な計画を立てる。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

- ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進め、現状の状態を確実に記録し、将来の保全に役立てる。同時にデジタル画像の公開を進める。
- イ 大山文庫・岸川蔵書等の現状の記録と修復手法について標本委員会等で検討・協議を進める。
- ウ 保存科学担当職員の支援を得てIPM管理を推進する。

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

- ア 収蔵庫内での虫菌害の監視及び温湿度管理を継続的に行う。
- イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。
- ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。
- エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。
- オ 西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワーク等との連携による災害対策について標本委員会等で検討・協議を進める。
- カ 大規模改修により館屋の耐震性能の向上を図り、人と物の安全を図る。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

- ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進めることとし、植物から順に記録を行う。
- イ 大阪博の館蔵品データベースを活用したジャパンサーチへのデータ提供に向けたデジタル・アーカイブ化等について諸条件を確認し、可能なものから各種補助金を活用して実現を図る。
- ウ 研究資料の J A I R O C l o u d による公開を引き続き実施するとともに、未公開の資料についても順次公開を図る。更なる公開流通の方途についても検討、開発を進める。
- エ 自然史分野の A I 活用に関しての情報収集を進める。

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修 (10)

大規模改修による機能強化に向け、予算獲得及び実施に向けた検討を進め、関係各所との対話の機会を確保し、着実に実施を進める。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修 (11)

- ア 花と緑と自然の情報センター2階のトイレについてバリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した改修を行う。
- イ 大規模改修の中でのハードウェア的な改善を目指すとともに、運用による改善が可能な項目についての検討を進める。
- ウ 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 (12)

以下の取組により、2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を進める。

- ア デジタル資料の充実を生かしたコンテンツ展開を大阪博と連動して行う。
- イ 当館と接点を持つ 2025 大阪・関西万博会場内外での出展者の展示や活動に必要な協力を提供し、同時に当館でのレガシー継承を心がける。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え (13)

常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示等で、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信等デジタルメディアを活用して展示品の背景情報についても伝えていく。

- ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催する。
- イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケート等による評価を強化する。
- ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

学芸員の研究や住民との協働研究に根ざし、大阪の自然の新たな一面や資料の新たな価値を紹介する特別展を開催する。展示だけでなくオンライン配信やSNSの展開と合わせ、その価値を広く住民と共有できるものとする。

ア 昨年度に引き続き「貝に沼る展」を開催する。また年度後半には「学芸員のお仕事展」を開催し、これらの特別展で学芸員の研究に根ざした展示及び解説を行う。同時にマスコミと連携した巡回展示においても、必要に応じ当館の資料を活用していく。

イ 学芸員の専門性、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

ア Tea mLABO事業等との関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展等の機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館等を行う。

イ 観察会や講演会等を伴った特別な付加価値を持ったイベントとして、ナイトミュージアムの開催等について検討と試行を行う。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 連続講座や大阪博事業に積極的に関与する。

イ 共同した外部資金獲得の可能性について積極的に情報収集し、公開の場であるべき姿の議論を進める。

ウ 全国博物館大会の大阪大会開催にあたり、博物館の課題を公開で議論・共有する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の研究利用目的での貸出・展示目的での貸出を積極的に進める。

イ 外来研究員をはじめとする、博物館資料の活用をする研究者の受入を積極的に行う。

ウ 特別展示等の際に、外部博物館から資料の借入を適切に行い、展示を充実させるとともに、博物館相互の信頼を維持向上させる。

エ 文化遺産防災ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワーク等と連携した防災及び相互レスキューの体制を維持向上させる。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ア 学会等の催事開催を積極的に誘致する。

イ エコカーの展示等企業活動と連携した催事の誘致についてMICE事業者等と情報共有を進め、実施に繋げる。

ウ 長居植物園のイベント開催に関連したユニークベニュー利用の誘致を行う。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

ア ICOMドバイ大会や関連する学術分野の国際大会への参加・発表を検討する。

イ 大阪で開催される全国博物館大会の成功に寄与する。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

ア ICOMドバイ大会関連する学術分野の国際大会への参加・発表を検討する。(再掲)

イ SPNHCで形成したアジアの連携を活用すべく活動を検討する。

- 3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)
海外研究者との資料の閲覧・貸出について、デジタル・実物両面に対応する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

- 1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

ア 大阪博と連携してプロモーション活動を行う。

イ 2025 年大阪・関西万博期間中に長居植物園で開催される L i l l e 3000 企画展示 (フランス) と連携したプロモーション活動を行う。

- 2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア モバイル端末によるビッグデータの活用等を広報委員会で検討し、データ分析に基づく広報展開を行う。

イ SNS等のアクセス情報を利用する。

ウ 大規模改修に伴う調査の解析等を行う。

- 3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

ア 適切なプレスリリースにより専門的な情報の提供を着実に行う。

イ 平常から SNS等を通じた平易な情報発信を行う。また新規の SNSへの対応を検討する。

- 4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪市立中央図書館及び各区の図書館等での巡回展示等を実施する。

イ 2025 年大阪・関西万博期間中に長居植物園で開催される L i l l e 3000 企画展示 (フランス) と連携した広報活動を展開する。(再掲)

- 5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開を行う。

イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を継続的に発行する。

ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。

エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

- 1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

ア 大阪博と連携してプロモーション活動を行う。

イ 2025 年大阪・関西万博期間中長居植物園で開催される L i l l e 3000 企画展示 (フランス) と連携したプロモーション活動を行う。

- 2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え(再掲) (28)

ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催する。

イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室

の活用を活発化する。また、適宜アンケート等による評価を強化する。

ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

マスメディア各社と連携して魅力ある特別展の誘致を行うとともに、必要に応じ所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。また、当館企画による巡回展の企画に付いてマスコミ各社との協議を行う。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長(再掲) (30)

ア TeamLABO事業等との関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展等の機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館等を行う。

イ 観察会や講演会等を伴った特別な付加価値を持ったイベントとして、ナイトミュージアムの開催等について検討と試行を行う。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を活かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。

イ 常設展示場内における外国語表記について二次元コードを利用した解説等多様な手法について展示委員会にて他館事例等の情報収集を進め、試行を行う。

ウ 館内表示や非常放送の多言語対応等についての検証とスタッフによる案内の改善を行う。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

長居植物園・長居パークセンターと協調して進める。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

ア 特別展等の機会を捉えた周辺飲食店との連携を行う。

イ セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムでの試合開催時の特別展PR等を推進する。

ウ 大阪自然史センターと連携したショッピングモール等でのPR展開を特別展等の催事に合わせて企画・推進する。

エ 2025年大阪・関西万博期間中に長居植物園で開催されるLille 3000 企画展示(フランス)と連携したプロモーション活動を行う。(再掲)

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、アンケートによるフィードバックを得ながら常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供等、魅力の向上に努める。

イ 自動販売機設置等アメニティを継続的に提供できるように努める。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供等、魅力の向上に努める。

イ 自動販売機設置等アメニティを継続的に提供できるように努める。（再掲）

ウ 民間出版社と協力した書籍の作成を行う。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行う。

イ 大阪府のレッドリスト、生物多様性地域戦略について、有識者として協力を行う。

ウ 兼業等を含め、民間企業等への講師派遣を行う。

エ 長居公園みどり自然部会への協力を行う。

オ 長居公園が実施する植物園内鳥類モニタリング調査への協力を行う。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ア 子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し配布する。

イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。

ウ 「教員のための博物館の日」を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。

エ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用方法の周知に努める。

オ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。

カ 職場体験を受入れる。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

ア 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。

イ 博物館実習生・インターン・専門研究のための利用等多くの学生を受入支援する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進（39）

ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう引き続き注力する。

イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。

ウ 関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施する。

エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣等、友の会への連携を継続する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

ア ボランティアやNPOとのさらなる連携等に関する方針を普及委員会等で検討する。具体的には、博物館と博物館周辺での活動活性化のための資金獲得のあり方について、公開での議論を受けて制度検討をする。

イ 友の会の総会及び評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。

ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励（41）

- ア 住民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。
- イ 博物館と連携して活動する住民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。
- ウ 関連学会と連携した住民の発表機会を誘致する。
- エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等生徒・児童の発表機会の確保に努める。

大阪市立東洋陶磁美術館

(前 文)

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指す。

東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

エントランス空間を増築しリニューアルした大阪市立東洋陶磁美術館が中之島のランドマークとなるよう、集客力のある展覧会事業を立案・運営・実施してくとともに、展示環境はもとよりカフェやミュージアムショップ等の充実による館の魅力向上を実現する。また、リニューアルした施設を活用したユニークメニュー等の取組を積極的に進める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

ア 日常的な学芸事務や展覧会事業等におけるデスクワーク、作品の取扱研修や展示撤収業務を通じた館内研修等による育成に取り組む。

イ 文化庁が主管する国指定文化財に関する取扱、企画・展示セミナー研修等を積極的に利用して学芸員の質的向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

館蔵品や、その関連作品に関する基礎研究を継続的に進め、展示や講演会・講座等での成果の反映を図っていく。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

ア I P M等を通じた作品や資料の保全を図り、館蔵品の計画的な補修に努めるとともに、収蔵庫や展示室における温湿度環境の改善に対する検討する。

イ 作品を安全に保管する桐箱について、優先順位をつけながら、損傷のあるものには修理を施し、桐箱がない作品には新調をしていく等、予算化に向けて検討する。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

文化庁や国立文化財機構等が開催する研修会への参加を通じて、展示をはじめとする公開・活用に関する知見の獲得に務める。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

日本博物館協会や全国美術館会議等の動向や、マスコミ各社との情報交換を行いながら、当館で開催する展覧会の入館者に対するアンケート調査を実施しつつ、広報関連業者からの効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討し、その方向性について協議する。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

- ア 寄贈、購入、寄託等を通じて、展示や調査研究等の活動に有効な作品の収集に努める。
- イ 展示や調査研究等の活動に有用な書籍、展覧会図録、研究雑誌等の収集に努めるとともに、インターネットで検索できる雑誌のサイト等を活用しながら、書庫の有効活用も検討する。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

特別展やコレクション展等での活用を念頭に、館蔵品の中で優先順位を設けながら、韓国陶磁等の修復を計画的に行う。

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

- ア 収蔵庫や展示室等の I P M 調査等の虫菌害の監視と対策を実施し、空調システムによる温湿度管理を行いながら、展示ケース内の温湿度調査を行って、適切な収蔵・展示環境の整備・改善に努める。
 - イ 保管スペース確保のため、資料展示室等を対象とした収蔵庫スペースの拡充についての方策を模索し、令和 8 年度の改修をめざして、方策について協議する。
- #### 9) I C T を活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）
- ア 新規寄贈作品の手続き終了後に写真撮影を行うこととともに、展示や調査研究、収蔵確認作業等に対する優先順位を勘案しながら、未撮影の館蔵品に関して継続的に撮影して、アーカイブ化を図る。
 - イ 館蔵品のオープンデータ化を継続的に進める。
 - ウ ジャパンサーチと連携しながら、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図る。

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

貴重な作品を安全に管理するための収蔵スペースの整備し、貴重な作品を安全かつ最適な環境で展示・保管するための展示室・収蔵庫の温湿度管理環境の改善の実施を目指す。

- ア 作品の安全かつ最適な鑑賞環境の向上のために、展示室の温湿度管理環境の改善をはかり、快適な鑑賞環境の改善のために老朽化したガラスの高透過化・無反射化等の改修に向け準備を進める。
- イ 作品の安全な保管のため、収蔵庫スペースの拡充と温湿度管理等、基本環境の改修に向けて事前の検討と計画を進める。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

カフェ入口へ続くスロープ、転回スペース、店内の通路幅は、ベビーカー、車椅子がゆとりをもって通れる十分な幅を確保した上で利便性の向上に努める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

2025 年大阪・関西万博期間に開催する特別展「CELADONー東アジアの青磁のきらめき」において館蔵品を中心に構成し、優れた館蔵品を十分に活用した展示を行う。また、大阪博で選定した「大阪の宝」20 点に関しても、2025 年大阪・関西万博期間は特別展とコレクション展において全作品をリアル展示するとともに、今後の作品展示にもこうしたレガシーを継承した展開を図る。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え (13)

安宅コレクションや李秉昌コレクション等の国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的なレベルの館蔵品を、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成などにより、多様な切り口から鑑賞できるようにする。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

学芸員の調査研究の成果をもとに、コレクションを最大限活用しながら、国内外の美術館・博物館等と連携しつつ、当館の特徴を活かした魅力ある独自企画の特別展を開催する。

ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。

【令和 7 年度目標】

・特別展「CELADONー東アジアの青磁のきらめき」71,300 人

・特別展「蔵出しコレクションー安宅・李秉昌コレクションとともにー」26,100 人

イ 海外の美術館・博物館と連携して、当館コレクションを活用した充実した企画の展覧会に作品を貸与してゆく等、当館のコレクションの魅力を諸外国へも発信する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

ア 光の饗宴開催期間中の令和 7 年 12 月 19 日に夜間開館を実施する。

イ 中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを令和 7 年 8 月 4 日に開催する。

ウ マーケティングによるニーズ把握をおこなっており、開館日や各種のイベントにも反映する。GW中の令和 7 年 4 月 28 日、お盆期間中の 8 月 12 日は、祝日の翌日であるが通常開館とする。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 本法人所属の各館と連携しながら大阪博を開催し、事務局とともにコレクションの魅力を多角的に PR していく。

イ クリエイティブアイランド中之島実行委員会に大阪中之島美術館や科学館とともに参加し、連携事業や共同広報を推進する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への所蔵作品の貸し出しを行い、様々な地域の人々に当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ユニークベニュー開催の計画、実施に向けて、施設を有効利用した幅広い事業展開を模索し、実現に向けて事務局や事業者との協議をおこなう。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議やシンポジウム等において、当館学芸員の調査研究等の活動成果の発表を行う。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

相互協力提携のある台北・国立故宫博物院をはじめとして、国内外の関連機関との共同研究や学術交流等を展開する。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)

作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への所蔵作品の貸し出しを行い、様々な地域の人々に当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

各館と連携して大阪博を開催するために、事務局とともに各種プロモーション活動やコンテンツの作成等の協議を行い、準備を進めて実施する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 最適な時期を踏まえ、ターゲティングを活用した戦略的なWeb 広報を展開する。

イ アクセス解析を通して広報効果を把握し、効果的な広報を展開する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

Web 広報媒体等に関する広告業務の一部代行事業者との協働により、エビデンスに基づいた広報戦略を検討し、国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信するとともに、新聞やテレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報等を推進する。

イ 社会教育機関等を利用した講座や講演会等の開催に協力して、施設との広報連携を進めてゆく。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 公式ウェブサイト、YouTube、X、Instagram等のSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報等を継続的に発信していく。

イ 調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表する。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得(再掲) (27)

各館と連携して大阪博を開催するために、事務局とともに各種プロモーション活動やコンテンツの作成等の協議を行い、準備を進めて実施する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え(再掲) (28)

安宅コレクションや李秉昌コレクション等の国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的な

レベルの館蔵品を、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成などにより、多様な切り口から鑑賞できるようにする。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

新聞社や放送局関連のマスメディアとの連携・共催による特別展を企画・開催し、SNSを中心としたWeb広報を推進するとともに、地域の様々な施設・機関との連携による共同広報の充実やチケット販売の促進を図る。

【令和7年度目標】

- ・特別展「CELADONー東アジアの青磁のきらめき」71,300人（再掲）
- ・特別展「蔵出しコレクションー安宅・李秉昌コレクションとともにー」26,100人（再掲）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲） (30)

ア 光の饗宴開催期間中の令和7年12月19日に夜間開館を実施する。

イ 中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを令和7年8月4日に開催する。

ウ マーケティングによるニーズ把握を行い、令和7年度の開館日、イベントに反映する。

またGW中の令和7年4月28日、お盆期間中の8月12日は通常開館とする。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

ア 主要館蔵品61件の多言語対応の無料解説アプリ「ポケット学芸員」の提供とその充実を図る。

イ 令和7年度は、インバウンドの来館者への利便性向上を訴求する目的で、QRトランスレーターによる館内パンフレットのペーパーレス化を推進する。※対応言語数は11ヶ国語〔日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語〕

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

リニューアル開館に合わせて実施したエントランス棟と展示室でのピクトサイン、キャラクター、数字、色彩等を生かしたサイン表示をふまえながら、より来館者に分かりやすい案内誘導に努める。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島パビリオンフェスティバル2025 Natural Light Display 等の中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報等を推進する。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

ア カフェ、ショップ事業者とのコラボ商品開発を推進する。

イ カフェでは、展覧会やイベントにちなんだ当館オリジナルメニューを継続して開発し、来館者に提供する。オリジナルメニューとしては、陶片をイメージしたクッキー、展示作

品をモチーフとしたスイーツやドリンを中心にSNS等でも発信し来館者数増に貢献する。

ワークショップでは、当館作品とのコラボ商品を数多く開発し、来館者の増加に努める。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

民間企業と連携し、展覧会や所蔵作品にちなんだオリジナルグッズの企画と商品化をおこない、来館者の増加に努める。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

出版社等との書籍類の開発等、直接的な民間事業者との協働やオープンデータ化した館蔵品画像による出版事業や商品開発を促進する。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

家族連れや児童・生徒等を対象とした、ワークショップやイベント等の計画を進めていく。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア 市民の多様な学習ニーズに対応した、コレクションや展覧会に関連する講演会や講座等の教育普及事業を実施する。

イ 博物館学を開講する大学の見学実習の受入等を実施する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

新たにボランティアを受入れ、所蔵作品のガイド等活動の実施を進め、活動充実を図り検討を行う。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取し活動に活かす。

大阪市立科学館

(前 文)

館の使命として、「科学を楽しむ文化の振興」を図る。主に物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術の各分野について、調査研究、資料の収集・保存、展示公開、プラネタリウムの投影及びその他の教育普及等の事業を行う。

令和7年度は、令和6年度にリニューアルした展示場の活用を進め、企画フロアでの企画展示等のイベントを充実させる。特に、「プラネタリウム100年」、「極限時空・ブラックホールと重力波」、「MIRAI-Bit展(仮)」など国内外の博物館、大学及びその他の主体との連携による企画展示等により、来館者の多様なニーズへの対応を図る。

また、2025年大阪・関西万博会場でサイエンスショーを実施するほか、期間を通じて豪州国立科学技術センター等と交流を深める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(1)

ア 科学館活動に関連する各種学会、研究会、研修会等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。

イ プラネタリウム、サイエンスショー及び企画展の制作時と制作後の組織内評価並びに来館者アンケートをとおして学芸員の事業企画に係る資質向上を図る。

ウ 市民向けワークショップ等の事業の計画・実施に向けた試行を行い、スキルの向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究(2)

ア 館蔵資料等関連資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進め、結果を口頭発表や論文・著作物としてまとめ公表する。

イ プラネタリウムのテーマ解説の製作にあたって、当該分野の最近の研究の進展が解説内容に取り入れられるよう調査と研究を行う。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究(3)

日本博物館協会をはじめとした関連団体や文化庁の研究会・研修会等に参加し、博物館マネジメントや資料の収集ポリシーや除却手続き、収蔵庫に関する課題等、資料保存や保管に関する新しい情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究(4)

ア 全国科学博物館協議会、全国理工系学芸員会議等関連団体の展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。

イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

- ア 展示・プラネタリウム・サイエンスショー等各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査し、館の運営、事業内容の改善を行う。
- イ 日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会をはじめとした関係団体の研究会等に参加し、運営に関する情報を収集する。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

- ア 物理学、化学、天文学、気象学、科学史、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。
【令和5年度実績】寄贈0件
- イ 科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。
- ウ 当館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行う。
【令和5年度実績】有償提供12件
- エ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。
【令和5年度実績】研究用単行本50冊、雑誌9誌

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

- ア 2025年大阪・関西万博期間を中心とした時期に展開する「大阪の宝」公開に向けて、必要に応じて展示用ケースを用意する等、適切な活用環境を整備する。

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

- 館蔵品定期検査要綱に基づき、館蔵品の点検を行い、必要に応じて保守、修繕を実施し、館蔵品の健全な保全状態を維持する。

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

- ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進めるとともに、広報や画像提供サービスに利用する。
- イ 展示場の展示物の各解説について学芸員によるYouTube解説映像を計画的に制作する。
【令和5年度実績】撮影件数11件、アーカイブ化10件

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

- ア プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を試行する。
- イ QRトランスレーターを使用して、館のリーフレットを15か国語（日本語を含む）に対応させ、海外からの来館者対応を行う。
- ウ 館内案内ではJISピクトの使用し、利用者に分かりやすい館案内を行う。また、必要に応じて日英文字での表示を行う。
- エ サイエンスステージ改修の検討を行う。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修 (11)

事務局と調整の上、第2期中計画期間中（令和9年度頃）予定をしている展示場各階のトイレ改修についての事前調査を始める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施 (12)

「大阪の宝」として選定した資料をはじめ、当館所蔵の資料の情報をオンライン等で積極的に発信する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え (13)

物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を確認できる体験型展示を行う。

また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。

ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショー等の演示を行う。

【令和5年度実績】常設展示入場者 234,629 人

【令和7年度目標】常設展示入場者 428,000 人

イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置する。

ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。

エ 企画展示コーナーにおいて、企画展等で所蔵コレクションを公開する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、年4回テーマを変え公開する。

また、館蔵品や調査研究成果を活用した企画展（年3回程度）や、博物館、大学及びその他団体等、地域の多様な主体との連携による展示等を実施する。

ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、適宜「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。

【令和5年度実績】プラネタリウム入場者数 203,719 人

【令和7年度目標】プラネタリウム入場者数 337,000 人

イ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするプログラムを開発する。

ウ 企画展「万博で夢見たサイエンス展」、「プラネタリウム100年」、「極限時空・ブラックホールと重力波展」、「M I R A I - B i t 展(仮)」、「静電気の世界(仮)」を実施し、市民の科学への興味を喚起する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

多数の来館者が見込まれる土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行い、オープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

大阪中之島美術館との連携による分野横断的な普及事業を実施する。また、地域連携であるクリエイティブアイランド中之島の一員として東洋陶磁美術館、大阪中之島美術館と連携した事業を行う。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。

ウ 大阪大学、大阪公立大学等近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会等各種事業の連携を行う。また、企画展「極限時空ブラックホールと重力波」では、国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用する。

エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

オ 全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会を開催する。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

プラネタリウムを活用した「スペシャルナイト」等のイベントを実施することにより、需要創出を図る。

【令和5年度実績】プラネタリウムスペシャルナイト開催2件。参加者数347名。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

ア 2026年の国際プラネタリウム協会の福岡大会に向けて、実践報告をはじめとした活動成果の発表・講演を準備する。

イ 多数のインバウンドが訪れる大阪・関西万博会場で、当館ボランティア等が培ってきた実験の技術や内容を実験ショーとして披露する。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

2025年大阪・関西万博を通じて、オーストラリアの国立科学技術センター(クエスタコン)等と交流を実施する。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。

ウ 大阪大学、大阪公立大学等近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会等各種事業の連携を行う。また、企画展「極限時空・ブラックホールと重力波(仮)」では、国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用する。

エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

オ 全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会を開催する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

2025 年大阪・関西万博開催期間において、「大阪博」のメインコンテンツである「大阪の宝」を活用したプロモーションを行うとともに、「大阪の宝」の実物展示を通じて、来館者の誘致を行う。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 来館者アンケートやホームページのアクセスチェック、SNS の反応分析等を実施して、事業に関するニーズを把握し、SNS やホームページ、チラシ等の広報媒体を有効に用いた広報活動を行う。

イ 各種活動を広く紹介する広報誌「科学館だより」、月刊誌「うちゅう」を発行し、市内外施設や友の会会員等効果的な配布を行う。

【令和 5 年度実績】「科学館だより」2 号、「うちゅう」12 冊発行

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

情報誌・新聞・テレビ・ラジオ等様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともにクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

イ 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。

エ 日本プラネタリウム協議会と連携したオンラインイベント「プラネタリウム 100 周年・クロージングイベント(仮)」により国内外のプラネタリウム機関等と連動した事業・広報を展開する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 学芸員の調査研究成果等を、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。

イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。

【令和 5 年度実績】12 冊発行

ウ 3 か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。

エ 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。

オ SNS ツールを利用した情報発信を行う。

【令和 5 年度実績】

科学館公式HPへのページアクセス数：約 128.1 万件、X 発信数：「大阪市立科学館広報」180 件、「学芸員@大阪市立科学館」83 件、Instagram 発信数：226 件

カ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。

キ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

2025 年大阪・万博開催期間において、「大阪博」のメインコンテンツである「大阪の宝」を活用したプロモーションを行うとともに、「大阪の宝」の実物展示を通じて、来館者の誘致を行う。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1 階から 4 階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショー等の演示を行う。

【令和 5 年度実績】常設展示入場者 234,629 人

【令和 7 年度目標】常設展示入場者 428,000 人

イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態静展示や、体験型展示を設置する。

ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。

エ 企画展示コーナーを設置において、企画展等で所蔵コレクションを公開する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

近隣の大阪中之島美術館、国立国際美術館、クリエイティブアイランド中之島の参加施設等と連携した活動を行い、新規来館者の増加に努める。また、中之島地域の施設・企業等が協働で実施する「中之島パビリオンフェスティバル 2025」に参加し、広報やチケット販売、共同事業等を実施する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

多数の来館者が見込まれる土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行い、オープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5) 多言語表記や I C T の活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア O s a k a F r e e W i - F i サービスを提供し、来館者の利用に供する。

イ 施設案内サイン等（非常時の案内を含む）は多言語表記・ピクトを活用する。

ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。

エ QRコードを利用して、展示解説文を日英中韓の 4 か国語で紹介する。また、当館公式 H P でも公開する。

オ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化に取り組む

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

ア 施設案内等に日英を中心とした多言語表記を導入するとともに、ピクトグラムを使用し、来館者にわかりやすい案内を行う。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア O s a k a M e t r o、京阪電鉄、J R 等の交通機関にポスターを掲示する。

イ O s a k a M e t r o、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラ

シ・リーフレット等を設置する。（再掲）

- ウ 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加して連携に協力し、中之島パビリオンフェスティバル等の連携事業に参加・実施する。
- エ 中之島地域のエリアネットワーク（中之島ウエスト・エリアプロモーション等）と連携したイベントに協力、実施する。
- オ 国立国際美術館、大阪大学中之島センター内カフェとの連携を検討する。

(3) 民間企業等との協働等

- 1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)
民間事業者と連携し、カフェのオリジナルのメニュー開発や、ミュージアムショップのオリジナル商品開発、販売を行い、快適な空間の提供等来館者サービスの充実を図る。
- 2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)
民間事業者との連携で、ミュージアムショップの商品の充実を検討する。
- 3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)
館蔵資料や展示物の画像データの提供、専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。
【令和5年度実績】民間事業者への画像有償提供 12 件

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

- ア 学習指導要領に対応した新展示場ワークシートを制作・公開する。
- イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、観覧者に天体の運行等に関する学習理解の手助けとなる学習用資料を配布する。
【令和5年度実績】学習投影実施 151 回
- ウ 小学校5・6年生を対象とした会員制事業「ジュニア科学クラブ」を実施する。
【令和5年度実績】会員数 64 人
- エ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。
- オ 幼稚園児や小学校低学年とその家族を主な対象としたプラネタリウム「ファミリータイム」の投影を実施する。
【令和5年度実績】実施 280 回

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

- ア プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を試行する。
- イ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。
- ウ 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。
【令和5年度実績】実習受講者 5 名
- エ 市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所事業を行う。
【令和5年度実績】コロキウム 6 回実施、参加者 80 名

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

ア 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行う。

イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施するほか、ジュニア科学クラブをはじめとした大阪市立科学館の各種活動を支援する。

ウ デモンストレーターによるアウトリーチ活動（SCIENCE de DOYA）を推進する。SCIENCE de DOYA の活動の一環として、万博に出演する。

【令和5年度実績】コロキウム6回実施、参加者80名

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、展示や普及活動に関して意見聴衆する。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)

ア サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動や、友の会有志による、自主的な活動を支援する。

イ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。

ウ 科学に関する冊子を制作するグループと市民が交流するフェスタを開催する。

大阪歴史博物館

(前 文)

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指す。

都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示教育普及等の事業を行う。

増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築作業を進めるとともに、新たな民間企業とのパートナーシップ導入を基軸として更なる魅力的な活動を実現し、幅広い来館者・利用者の獲得と満足度の向上を実現する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

ア 館の活動を支える人材を確保し、適切な職員配置、業務分担などを模索する。

【令和5年度実績】新規採用：0人 職員数：31人（うち学芸員19人）

イ 職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。

【令和5年度実績】研修5回、参加者5人

【令和7年度目標】研修5回、参加者5人

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和5年度実績】

共同研究事業3本、基礎研究事業1本

著書・論文数54件、研究発表70件

【令和7年度目標】

共同研究事業3本、基礎研究事業1本

著書・論文数50件、研究発表60件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

ア 博物館資料の保管にかかわる情報を研修や研究会などを通じて収集し、その研究で得た成果を活かす。

【令和5年度実績】特別展示室のケース改修、新規ケースの導入

【令和7年度目標】エキヒュームに代わるIPMを検討する

イ 展示ケースの劣化度合いを調査し、修理可能なケースは修理計画を、修理不能なケースは廃棄計画を立て、安全な展示作業環境を整備する。また、補充導入するケースについても調査を行う。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

博物館資料の展示にかかわる情報を他館や研究会等を通じて収集し、その研究で得た成果を

活かす。

【令和5年度実績】展示場照明のLED化について費用と工期を検討した

【令和7年度計画】LED照明への交換計画の策定

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

ア 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。

イ 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象としたアンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

【令和5年度実績】来館者アンケート随時、特別企画展1回、特集展示4回

【令和7年度目標】来館者アンケート随時、特別展・特別企画展4回、特集展示5回

ウ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、以後の企画立案に活用する。

【令和5年度実績】展覧会事後分析1回

【令和7年度目標】展覧会事後分析4回

エ 事務局と連携し、事務局において収集したマーケティング・リサーチ結果やビッグデータを活用し戦略的な広報を展開する。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和5年度実績】購入0件0点、寄贈280件310点

イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。

【令和5年度実績】寄託0件0点

ウ 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和5年度実績】館蔵資料撮影38カット、マイクロフィルム撮影0カット

エ 住民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行い、年度内を目途にデータベースへの登録を進める。

【令和5年度実績】図書2,702点

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

ア 館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復を行う。

【令和5年度実績】修復0件

【令和7年度目標】修復2件

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。

ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。

エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。

【令和5年度実績】燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回

【令和7年度目標】燻蒸方法検討、収蔵庫内生物調査1回

9) ICTを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影等の様々なデジタル化を実施し、既存の資料のアーカイブ化を進める。

【令和5年度実績】アーカイブ化 38 カット

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

展示室における適正な展示環境の維持や、照明のLED化に取り組む。また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築を館内部で協議を進める。

ア 老朽化した展示ケースや展示機器、展示照明の状況を把握し、修理や備品類新調など適宜対応する。

イ 展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。

ウ 改修した特別展示室の展示ケースの空気環境を維持し、未改修ケースについても可能な限り展示環境の改善を図る。

エ 2025 年大阪・関西万博に向けて展示室のネットワーク環境の活用を進める。

オ 公開承認施設として認可される展示環境を維持する。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

ア 2023 年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき館内の充実を図る。

イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭においてユニバーサルデザイン対応を進める。

ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を情報収集し館内で協議を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

2025 年大阪・関西万博における「大阪博」コンテンツを充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進める。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。また、これまで以上に展示更新を行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。

ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などを通じて展示する。

【令和5年度実績】常設展示入場者 243, 229 人

【令和7年度目標】常設展示入場者 360,000 人

イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。

【令和5年度実績】テーマ展示1回、展示更新39回

【令和7年度目標】テーマ展示2回、展示更新30回

ウ 館蔵資料及び市内出土の考古資料等を紹介するため、5本の特集展示を実施する。

・オープン the タイムカプセル 4月16日～6月23日

・新収品お披露目展 6月25日～9月1日

・YABU ME I ZAN 9月3日～11月3日

・デザインの玉手箱・鐔 11月5日～1月12日

・郷土玩具が好きー風土と造形の愉しみー 1月14日～4月7日

エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。

オ 個人端末による音声ガイド（多言語）を活用し、展示の理解度を高める。

カ 常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化 (14)

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催する。

ア 自主企画による特別展を1本実施する。

・「全日本刀匠会 50 周年記念 日本刀 1000 年の軌跡」目標来館者数 29,200 人

【令和5年度実績】特別展示室の改修により開催実績なし

イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を2本実施する。

・「大阪市博物館機構連携企画 大阪の宝 in 大阪歴史博物館」（自主企画）

・「河内源氏と壺井八幡宮」（自主企画）

【令和5年度実績】「異界彷徨一怪異・祈り・生と死一」（自主企画）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

過去の実績データなどを含めたマーケティング・リサーチに基づき、特別感のあるコンテンツとして夜間開館や貸切開館などを実施する。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 特別企画展「大阪市博物館機構連携企画 大阪の宝 in 大阪歴史博物館」を開催実施するほか、関連企画を推進する。

イ 文化庁等の補助金、博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

ウ 大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑み、継続して各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。

【令和5年度実績】貸出15件47点、借用資料0件0点

イ 常設展において、文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図る。

【令和5年度実績】借用6件1,486点

ウ 関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得る。

【令和5年度実績】

包括連携協定：（一財）大阪市文化財協会・大阪市教育委員会

共同研究：江戸東京博物館

【令和7年度目標】

包括連携協定：大阪市教育委員会、大阪府教育委員会・近つ飛鳥博物館

共同研究：江戸東京博物館

エ 東日本大震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどを実施する。

【令和4年度実績】 「難波宮遺跡探訪」参加者663人（5月11日再開～3月31日）

イ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議やシンポジウム等において各種活動成果の発表を行う。

【令和5年度実績】 研究発表70件（国内のみ）

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

ア 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流など、韓国や中国の博物館との交流についての情報交換を行う。

イ 世界の博物館等関係機関の視察を受け入れ、博物館運営についての情報を収集する。

【令和5年度実績】 視察：11件

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)

韓国ソウル歴史博物館および台湾故宮博物院による朝鮮通信使関連展覧会に館蔵品を出品し、陳列・撤収作業に学芸員を派遣する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

事務局と連携した広報活動を実施する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

ア 特別展・特別企画展、特集展示及び常設展示のアンケートを実施し、その分析により有効な広報手法を模索する。

【令和5年度実績】 アンケート実施 特別企画展1回、特集展示4回

【令和7年度目標】 アンケート実施 特別展・特別企画展4回、特集展示5回

イ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。

【令和5年度実績】 X投稿396件

【令和7年度目標】X投稿400件以上、Instagram投稿250件以上
ウ 事業に応じてSNSと紐づけたWeb広告を実施し、発信力を高めるとともに実施レポートにより有効な広報ターゲット、メディアを選択する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

ア 地域の広報誌や新聞誌上等への寄稿を行い、専門情報の発信を行う。

【令和5年度実績】「MACHINAMI」、産経新聞、北國新聞、読売新聞など
イ 様々なメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。

【令和5年度実績】BS11「偉人・敗北からの教訓」、読売テレビ「す・またん」、「関西情報ネットten」、NHK「美の壺」、「有吉のお金発見突撃!カネオくん」、「ウィークエンド関西」等

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪市生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を定期的に提供する。

イ 本法人が連携開催する「ミュージアム連続講座」へ講師派遣を行う。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、データをWeb上に公開する。

【令和5年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第22号

【令和7年度目標】「大阪歴史博物館研究紀要」第24号

イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。

【令和5年度実績】「大阪歴史博物館館蔵資料集」第19号

【令和7年度目標】「共同研究報告書」の発行

ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を周知する。

【令和5年度実績】「大阪歴史博物館年報」

【令和7年度目標】「大阪歴史博物館年報」

エ 自主企画展（特別展・特別企画展）において、図録・リーフレット等を作成する。

【令和5年度実績】リーフレット：特別企画展1種

【令和7年度目標】特別展：図録1冊、特別企画展：リーフレット2種

オ 特集展示リーフレットを作成するとともに、その内容をホームページで公開する。

【令和5年度実績】特集展示4本

【令和7年度目標】特集展示6本

カ ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。

【令和5年度実績】X投稿396件

【令和7年度目標】X投稿400件以上、Instagram投稿250件以上

キ 事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を配信する。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲） (27)

事務局と連携した広報活動を実施する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。

【令和5年度実績】常設展示入場者 243,229 人

【令和7年度目標】常設展示入場者 360,000 人

イ 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。

【令和5年度実績】テーマ展示1回、展示更新39回

【令和7年度目標】テーマ展示2回、展示更新30回

ウ 館蔵資料を紹介するため、5本の特集展示を実施する。

・オープン the タイムカプセル 4月16日～6月23日

・新収品お披露目展 6月25日～9月1日

・YABU ME I Z A N 9月3日～11月3日

・デザインの玉手箱・鐔 11月5日～1月12日

・郷土玩具が好きー風土と造形の愉しみー 1月14日～4月7日

エ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。

オ 個人端末による音声ガイド（多言語）の利用を促進し、展示の理解度を高める。

カ 常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。観光関連事業者等と連携した広報展開を模索する。

ア 在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い誘致に努め、特別展1本を開催する。

【令和5年度実績】特別展示室の改修により特別展の開催実績なし

【令和7年度目標】「正倉院 THE SHOW」観覧者数 79,740 人

イ O s a k a M e t r o 駅構内でのポスター掲示の継続や、各鉄道事業者の事業への協力などを通じての広報を推進する。

【令和5年度実績】

O s a k a M e t r o 駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展・特別企画展で実施

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

過去の実績やデータなどを含めたマーケティング・リサーチに基づき、特別感のあるコンテンツとして夜間開館や貸切開館等を実施する。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

イ 展示室のネットワーク環境を活用し、個人端末による音声ガイド（多言語）を充実させる。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進める。

- イ 大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外デザイン表示の拡充を進める。
- ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

- ア 大阪城天守閣との相互割引を検討し、新規来館者の増加に努める。
- イ Osaka Metro 駅構内でのポスター掲示の継続や各鉄道事業者の事業への協力等を通じて広報を推進する。
- ウ 周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE、近鉄百貨店各店など）との広報協力を継続する。また、令和7年度に開業する難波宮跡公園北部ブロック整備事業との連携を継続する。
- エ 「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「ユニークベニユー事業」や「学び×エンタメ事業」に協力して実施することで館の魅力を向上させる。
- オ 「生きた建築ミュージアムフェスティバル（イケフェス大阪）」や「OSAKA CLASSIC」など大阪市内で開催されている文化イベントの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行う。
- カ NHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、BK大感謝祭等にあわせた企画を実施する。
- キ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。
(再掲)
- ク 各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。
- ケ 民間企業と協働でイベントを企画し実行する。
【令和5年度実績】クラブツーリズム5件、大阪迎賓館1件、JTB1件
【令和7年度目標】クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件

(3) 民間企業等との協働等

- 1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)
 - ア JTBコミュニケーションデザイン株式会社を代表とする事業者とともに進める「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、展覧会コラボレーションメニュー（レストラン）を展開する。各種ワークショップなどの開催など体験型メニューに力を入れる「コト消費」にシフト（ミュージアムショップ）するなど館の魅力向上に努める。
【令和7年度目標】コラボメニュー4品目 ワークショップ4開催
 - イ 来館者の属性などマーケティングデータに基づいたメニュー、サービス提供を目指す。
- 2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)
 - 「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が運営するミュージアムショップで販売するグッズの選定・開発を進める。
【令和5年度実績】2種類開発・発売
【令和7年度目標】4種類開発・発売
- 3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、住民団体の要請に応える。

【令和5年度実績】特別観覧 276 件

イ 「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が展開する「学びエンタメ事業」について、共同で事業の実施を進める。

【令和7年度目標】10 件

ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。

【令和5年度実績】3 件

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

ア 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施する。

【令和5年度実績】

「わくわく子ども教室」実施件数 5 件、参加人数 205 人

「考古学体験教室」7 校、参加人数 456 人

【令和7年度目標】

「わくわく子ども教室」実施件数 7 件

「考古学体験教室」6 校

イ 教員研修への協力として「教員のための博物館の日」を実施する。またワークショップの開催等を通じて、館活動の周知と教材開発への支援を行う。

【令和5年度実績】実施件数 2 件、参加人数 68 人

【令和7年度目標】実施件数 2 件

ウ 地元の学校を対象とした郷土史学習コンテンツやイベントを共同で企画し、館への参画・利用を働きかける。

【令和5年度実績】「綿繰り体験」1 校、ほか職業体験など 7 校

【令和7年度目標】5 校

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連続講座・見学会などを実施する。

【令和5年度実績】講座 20 回、参加人数 1,002 人、見学会 14 回、参加人数 207 人

【令和7年度目標】講座 6 回、参加人数 350 人、見学会 4 回、参加人数 60 人

イ 博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れるとともに、学校からの要望に応じて職業体験や出前授業を実施する。

【令和5年度実績】博物館実習：実施 2 回、参加数 12 大学 50 人、見学実習 7 大学、参加人数 255 人、中学生向け職業体験：3 校 7 名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等：高等学校 4 校

【令和7年度目標】博物館実習：実施 2 回、参加人数 40 人、見学実習中学生向け職業体験、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやNPO等の各館への活動の参画の促進 (39)

ア ボランティア活動を円滑に実施するとともに、自己研修として展示の見学、講座への参加を通じてボランティアスタッフの資質を高める。

【令和5年度実績】ボランティア活動を再編し、164名を登録した

イ 友の会行事への参加や講師派遣などを通じて、友の会の運営を支援する。

【令和5年度実績】友の会講師派遣4回

ウ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人等と協働事業を実施する。

【令和5年度実績】「わくわく子ども教室」1回、参加人数23人

【令和7年度目標】1回実施

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定 (40)

ア メール配信や懇談会等を通じて、ボランティアとの情報共有と意見交換を行う。

【令和5年度実績】「たより」発行0回、解散式1回 ※活動は実質1か月

【令和7年度目標】メールによる連絡随時、懇談会1回

イ 友の会の総会および幹事会を通じて、友の会との意見交換を行う。

【令和5年度実績】総会1回、幹事会5回

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 (41)

施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。

【令和5年度実績】凧づくりと凧揚げ1回、関西考古学の日1回、イケフェス1回（参加者0名）

【令和7年度目標】教育活動企画2回

大阪中之島美術館

(前 文)

大阪中之島美術館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットフォームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たす。

大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施する。

P F I コンセSSION方式により運営する大阪中之島美術館においては、法人が運営事業者である（株）大阪中之島ミュージアムとの定期的な対話やモニタリングを通じ、相互のパートナーシップのもと大阪中之島美術館の安定的な運営を図り中之島地区をはじめとする地域の活性化や住民サービスの向上を実現し、賑わいの創出に寄与する。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（1）

ア 館活動を支える学芸人材の確保を目指す。

イ 学芸員はもとより学芸業務にかかわる職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め参加機会を増やす。

2) 博物館等資料に関する調査研究（2）

館蔵品に関する調査・研究を継続的に推進する。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（3）

館蔵品の保存状態を常に確認し、その保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（4）

展覧会開催時に展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査するとともに、他館の展示方法や関係研究所や展示事業者等から最新の情報の収集に行う。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（5）

他館の調査・情報収集をするほか、ブランディングやマーケティング等に関して営利団体の手法等も調査・研究の対象とする。

イ 資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（6）

ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、美術館活動に有効な作品収集に努める。

【令和5年度実績】購入20件、寄贈等61件

イ 引き続き、館蔵映像資料や紙資料のデジタル化を進め、その公開に努める。

7) 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（7）

館蔵資料の状態を勘案し、優先順位の高いものから修復・額付けを行う。

【令和5年度実績】修復作品6点、額付け作品4点

8) 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（8）

ア I P Mの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行う。

イ 貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行うこととする。

ウ 貴重資料等についても同様の処置をするものとする。

9) I C Tを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（9）

ア 引き続き、未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進め、収蔵品データベースにて公開する。

イ アーカイブ情報室にて、収蔵資料をデジタル化し、その画像をデータベースで公開する。

【令和5年度実績】デジタル・アーカイブ化 911件

ウ アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。

ウ 施設及び設備の充実

10) 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

利用者サービスの更なる向上を図るべく、令和8年度の導入に向けてチケット販売・受付に関するシステム・設備の更新を進める。

11) バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

多様な利用者の利便性の向上に資するべく、展覧会開催時の案内等の整備・充実を図る。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

「大阪博」の実施に向け各館と連携を図り、コンテンツの充実を目指す。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。

ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展を実施する。

館の特色を活かした特別展や、時代や社会のニーズにあった広い視点を持った特別展を実施する。

- ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。
- イ 海外の美術館・博物館と連携して、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長 (15)

来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期の特別展において開館時間延長を実施する。(予定：計 22 日間)

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。

イ 中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ 国内外の他館から作品・資料を借用することで、展覧会の充実を図る。

ウ 災害時の作品・資料保全のため他館の事例を参考とする。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開 (18)

ホールや芝生広場を使ったユニークベニユーの実施に努める。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等 (19)

国際会議・シンポジウムの開催に向け、国内外の美術館・美術関係者との交流を深める。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成 (20)

作品の貸借を契機とした海外美術館との交流をもとにネットワークの形成・拡大を図る。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲) (21)

作品の状態を鑑みながら可能なものの貸し出しを行い、他館との交流を図る。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

SNS を活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるような発信情報等を行う。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

SNS のフォロワーの増減、ツイート数などを定期的にチェックして、更なる効果的な発信に努める。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開 (24)

新聞、美術雑誌、地域の広報誌、テレビ、ラジオなどで展覧会の広報を行う際は、学芸員による紹介を行うよう努め、研究成果を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 全国美術館会議の機関誌への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努める。

イ クリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

ア 展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。

イ 公式ウェブサイト、Y o u T u b e サイト、I n s t a g r a m などのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。

【令和5年度実績】

X 投稿数 327 回

I n s t a g r a m 投稿数 129 回

Y o u T u b e 総再生回数 0 回

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲） (27)

SNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるような発信情報等を行う。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲） (28)

ア 年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ 4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催 (29)

ホール、芝生広場の貸し出し等と連動した展覧会を実施し、館全体で多様な利用者が楽しむことができる機会の創出を図る。

マスメディア等と連携した特別展を企画・開催する。

【令和5年度実績】

「開館1周年記念特別展 大阪の日本画」：43,093 人（通年）

「デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」：31,785 人

「佐伯祐三 ― 自画像としての風景」：81,466 人

「民藝 M I N G E I ― 美は暮らしのなかにある」：52,594 人

「P a r a l l e l L i v e s 平行人生 - 新宮 晋+レンゾ・ピアノ展」：21,091 人

「特別展 生誕 270 年 長沢芦雪―奇想の旅、天才絵師の全貌―」：81,956 人

「テート美術館展 光―ターナー、印象派から現代へ」：122,736 人

「決定版！ 女性画家たちの大阪」：29,012 人

「モネ 連作の情景」：451,842 人（通年）

「没後 50 年 福田平八郎」：54,539 人（通年）

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲） (30)

来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期の特別展において、開館時間延長を実施する。（予定：計 22 日間）（再掲）

5) 多言語表記や I C T の活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実 (32)

施設案内等の多言語化を推進する等、外国人にもわかりやすい案内表示を行う。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

イ 周辺施設との誘客策に取り組む。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実 (34)

他企業と連携し、展覧会にかかる商品開発に努める等、来館者サービスの充実に図る。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 (35)

民間事業者等と協働したミュージアムグッズの企画と商品化等を図る。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援 (36)

博物館等資料の貸出を積極的に行う。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のための支援施策を実施する。

(2) 幅広い来館者への支援 (38)

美術とデザイン作品を楽しみ、想像力を高めることができるプログラムを様々な専門機関と連携して企画・実施する。

機構事務局

(前 文)

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、マーケティング、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努める。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア 専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 (1)

ア 学芸員に対して、各種の研修を行い資質の向上を図る。

イ 広報やマーケティング・リサーチ等の研修を実施する等、本法人の重点事項にかかる能力開発を積極的に進める。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価 (5)

博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、上半期終了後に令和7年度の間接評価(仮評価)を実施し下半期の業務改善に繋げる。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施 (16)

ア 本法人が開催する大阪博において、WEB上で大阪の宝を紹介するとともに、各館の展覧会等において大阪の宝を広く紹介する。

イ 大阪公立大学との包括連携協定に基づき、各種講義やミュージアム連続講座等に学芸員が出講する。

ウ 大阪商工会議所との包括連携協定に基づき、なにわなんでもWEBチャレンジやチェーンカレンダーの作成等に参画する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 (17)

本法人が中心となり大阪市内で開催する全国博物館大会を通じて、全国の博物館関係者と積極的に協力・交流し成果を上げるとともに、博物館を取り巻く多くの社会課題の解決に取り組む。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得 (22)

2025年大阪・関西万博を契機とした大阪博や各種の魅力ある展覧会の開催に関するWEB等のプロモーション活動を積極的に展開し、6館で年間総来館者360万人を達成する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開 (23)

WEBサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い戦略的な広報を展開する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開 (25)

ア 大阪観光局、関西MaaS、その他の関係機関等と連携した広報展開を行う。

イ ブルームバーク・コネクツのアプリに法人全体で参画し、国内外への魅力発信を実現する。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信 (26)

SNS等による情報発信を積極的に進める。

2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲） (27)

2025 年大阪・関西万博を契機とした大阪博や各種の魅力ある展覧会の開催に関するWEB等のプロモーション活動を積極的に展開し、6 館で年間総来館者 360 万人を達成する。

5) 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供 (31)

大阪博や各館の展覧会において、自動翻訳サービス等を活用し多言語化を実現するとともに、各所蔵品の展示期間をわかりやすく発信する等、来館者に対して快適な鑑賞機会を提供する。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (33)

大阪博の開催において、NFTスタンプラリーや大阪博WEBサイト等の広報の展開や事業の実施を通じて各館及びその周辺エリアの魅力向上を目指す。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援 (37)

大阪市教育委員会との連携協定を基に、大阪市の学校教育の現状や今後に向けての情報収集に努める。

(2) 幅広い利用者への支援 (38)

ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。

イ 包括連携協定に基づき、大阪公立大学の博物館講座「資料保存論」「展示論」「博物館経営論」の3講座に対する取りまとめを行い、職員の出講を行う。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自主的かつ自律的な組織運営

(1) 経営と運営の一元化による効果の発揮

1) 全職員に対する博物館機構の経営理念及び活動方針等への理解の促進によるガバナンス強化 (42)

定例で開催される理事会や経営会議の議決事項等を、総務課長連絡会・学芸課長連絡会、グループウェアを用いて各館構成員に適宜周知・徹底し、各会議の議事録を会議終了後に迅速に共有することで組織全体の意思一致を図る。

2) 中長期的な視点を備えた事業の企画及び実施 (43)

ア 大阪博の開催や下半期の事業実施にあたり、経営会議での協議等を経て、エビデンスに基づいた各種の広報・プロモーション活動を実施する。

イ 5年間の改修計画に基づき、施設整備改修を実施する。

ウ PFI コンセSSION方式により運営する大阪中之島美術館のこれまでの運営について検証・改善を行う。

エ 各館の展覧会の企画・立案について複数年度の計画の情報集約をし、各館の連携・調整を図る。

3) 各館におけるノウハウや事業成果、課題等の博物館機構全体での共有 (44)

ア 経営会議、総務課長連絡会・学芸課長連絡会議の場において、事務局及び各館から事業成果や課題を報告し、その成果やノウハウを共有する。また、グループウェアを活用することにより迅速に情報を伝達する。

イ 人流データ分析の情報を広報活動に活かすべく、事務局から各館に展開し情報の共有を図る。

4) エビデンスに基づいた戦略による事業の実施及び評価 (45)

ア 万博関係事業を中心にオープンデータ並びに独自のリサーチに基づくマーケティングデータを駆使しながら広告宣伝・プロモーション戦略を組み立てる。

イ アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。

5) PFI 事業に係るモニタリングによる大阪中之島美術館の安定的な経営 (46)

ア 定期的に運営協議会（年1回）や部会（月1回）を開催し、PFI 事業者との連携を図る等、安定的な運営を行う。

イ PFI コンセSSION方式によるこれまでの運営手法結果について（株）大阪中之島ミュージアムと協働して検証・改善を行う。

ウ 4半期ごとのモニタリングに加えて適宜来館者数の把握や日々の課題抽出を行う。

6) ICTの積極的活用等による業務の効率化 (47)

ア 引き続き、館蔵品データベースのコンテンツの増加を図ることにより、学芸分野の業務の効率化を目指す。

イ 文書管理システム等、導入したシステムの活用により業務の省力化を進める。

7) より一層のサービス向上実現に向けた民間活力の導入、渉外及び広報機能の強化(48)

- ア アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。(再掲)
- イ 引き続き、プレスリリース配信サービス(P R T I M E S)を積極的に活用し、機構全体の広報活動の規模拡大と効率向上を図る。

(2) 内部統制の強化

1) 内部統制の強化に向けた環境整備(49)

- ア コンプライアンス遵守に関する研修等を実施する。(年間1回)
- イ 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。(年間1回)
- ウ 個人情報保護ポリシーの見直し、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPR A等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応する。
- エ 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを適宜行う。
- オ 法令や業務方法書等に基づいた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。

2) 事業継続計画(B C P)の策定及び継続的改善(50)

民間事業者と協働し事務局及び各館のヒアリングを行い、事業継続計画(B C P)を策定するとともに、職員研修を実施する。

2 職員の育成に向けた取組(51)

- ア 階層別の研修を各階層1回は実施する。
- イ 適切な人事交流を行うべく、人事方針を策定する。
- ウ 昨年度に引き続き、広報、マーケティング、W e bマーケティング等研修を企画・実行し、デジタルマーケティングへのシフトを志向する。
- エ 博物館のD X化の推進に向けた研修を年間2回実施する。
- オ 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて検討を行う。
- カ 他機関等との人事交流の策定に向け組織内で協議を進める。
- キ 職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的なジョブ・ローテーションを実施する。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 収入の確保(52)

- ア 収入確保に向け、各種の展覧会の広報・プロモーション活動を実施する。
- イ 各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等を行う。
- ウ ユニークベニュー専門事業者と連携し、先行する館においてユニークベニュー事業のモデルケースを策定する。

2 外部資金の獲得 (53)

- ア 外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、他機関等の調査結果をもとに諸会議で検討を行う。
- イ 科学研究費補助金等の採択率の向上に資するべく、学芸課長連絡会議等の場を活用し成功事例の共有を図る。
- ウ 令和7年度に法人が実施する万博関係事業において、文化庁等への補助金申請を行い、採択を目指す。

3 経費の縮減 (54)

- ア 事業の効率化はもとより、契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げる。
- イ デジタル化と集約化のために、万博専用LPに各館展覧会・イベント等の情報を集約する。
- ウ 学芸員の研究等を紹介する動画を編集の上、本動画を活用し視聴者の満足度の向上を実現するとともに、同動画を広告宣伝ツールとしても活用する。
- エ 引き続きオウンドメディアの目的、機能の整理を行い、スクラップアンドビルドを継続する。

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 SDGsの理念に基づく取組の推進 (55)

- ア 被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。
- イ 建築物の大規模改修時において、はじめて訪れる人にも理解できるサインの設置、トップラナー機器等の導入や照明器具のLED化、バリアフリートイレの設置など、SDGsの理念に基づく取組を推進する。
- ウ こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。

2 来館者等の安全確保 (56)

民間事業者と協働し各館のヒアリングを行い、事業継続計画（BCP）を策定するとともに、職員研修を実施する。（再掲）

3 情報公開の推進 (57)

- ア ホームページ等を積極的に活用し、情報の提供に努めるとともに、情報公開等に対しては速やかに対応する。
- イ ホームページやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信する。
- ウ 大阪博の情報を適宜ホームページ等にて発信する。
- エ 利用者等が理解しやすいホームページの運用を行う。

【令和5年度実績】情報公開0件

第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（人件費の見積りを含む。）

2025 年度計画

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金収入	2,557
施設整備費補助金収入	688
事業等収入	1,280
寄附金等事業収入	18
前期繰越金	110
計	4,653
支出	
業務費	1,067
一般管理費	1,441
人件費	1,337
施設整備費補助金支出	688
寄附金等事業費支出	10
機構戦略費	110
計	4,653

2 収支計画

2025 年度計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	4,326
経常費用	4,326
業務費	1,017
一般管理費	1,441
人件費	1,337
施設整備費補助金	247
寄附金等事業費	10
機構戦略費	110
減価償却費	164
収入の部	4,304
経常収益	4,304
運営費交付金収益	2,507
施設整備費補助金	247
事業収益	1,259
寄附金等収益	128
資産見返負債戻入	163
純損失	▲ 22
前期繰越金	22
総利益	0

3 資金計画

2025 年度計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	7,033
業務活動による支出	4,161
投資活動による支出	492
翌年度への繰越金	2,380
資金収入	7,033
業務活動による収入	3,855
運営費交付金による収入	2,557
事業等による収入	1,288
寄附による収入	10
投資活動による収入	688
施設整備費補助金収入	688
前年度からの繰越金	2,490

第6 短期借入金の限度額

- 1 限度額
5 億円

- 2 想定される短期借入金の発生事由
運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること等が想定される。

第7 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
なし

第8 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
なし

第9 剰余金の使途
決算において、剰余金が発生した場合、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

第10 その他設立団体の規則で定める業務運営並びに財務及び会計に関する事項

- 1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画
前中期目標期間繰越積立金については、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。
- 2 その他法人の業務運営に関し必要な事項
- (1) 人事に関する計画
第1「1（1）ア 専門的人材及び各種活動の充実」に記載のとおり。
第2「2 職員の育成に向けた取組」に記載のとおり。
- (2) 施設及び設備に関する計画
長期的な展望に立った計画的な施設設備の整備を行うとともに、施設の老朽化の程度を勘案しつつ、下記のと通りの計画に従った整備を推進する。

施設・設備の内容	予定額（百万円）	財源
・建物改修 ・電気設備更新 ・排水設備更新 ・空調設備更新 ・各所施設整備	688	施設整備費補助金